

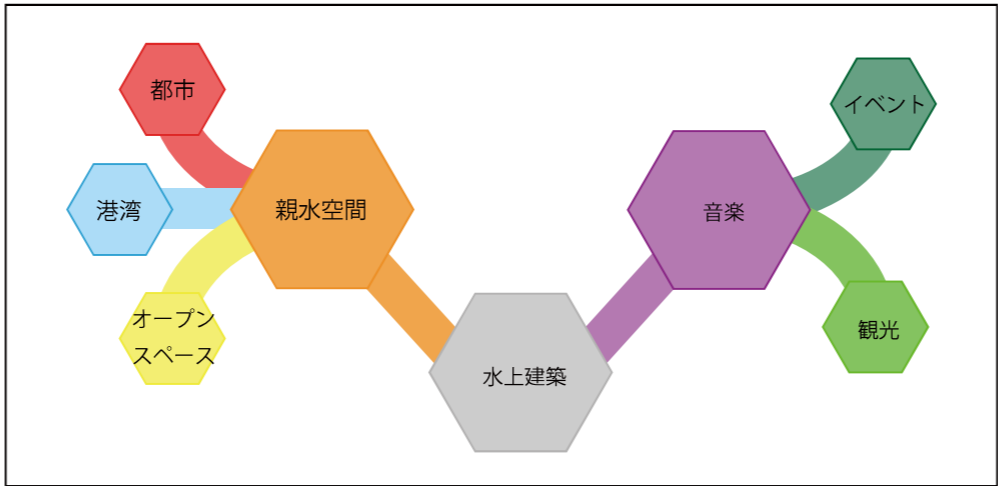
01/ 今回の計画について

今回は神奈川県横浜市みなとみらい地区を中心に組み立てます。音楽と芸術の活動に力を入れているみなとみらいに拠点をついた海上施設を計画します。また、島国の日本において水との親しみやすさは非常に大切です。各地の海上に新たな空間を創り出すことで街は変化や、訪れる人々に建築と親水空間の新たな可能性を示し、魅力に溢れる水の都になるよう計画しました。

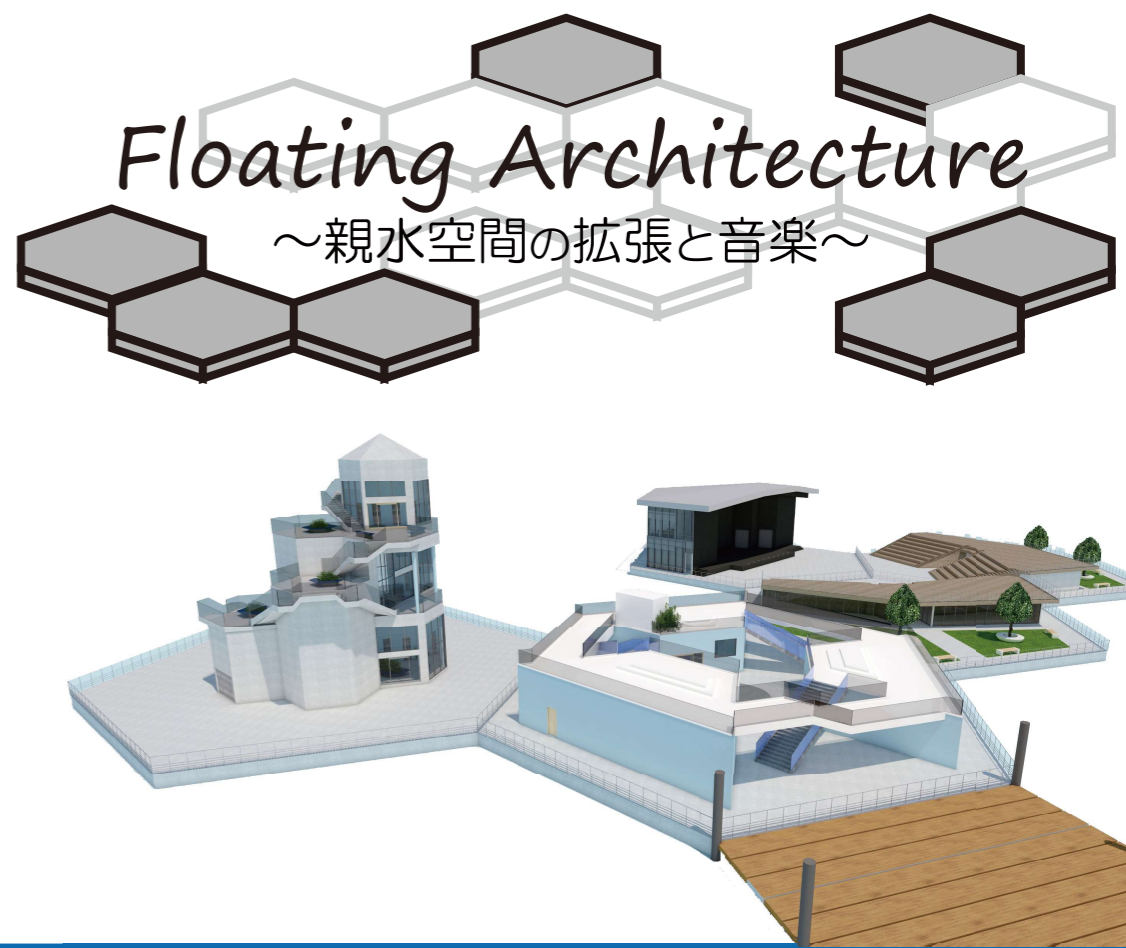


〈横浜 臨港パーク〉 〈横浜 Kアリーナ〉

「親水空間の拡張と音楽」をテーマとし、浮体を用いた水上建築の設計提案を行いました。都市・港湾・オープンスペースをかけた空間や、観光やイベントにより賑わいを演出したいと考えました。また、浸水空間と音楽をかけた空間が水上建築に活かせるよう考えました。



〈水上建築の概念〉



02/ 水上建築の工法

水上建築は二つの工法に大別されます。着底式、浮体式があります。私たちは洋上に浮かぶ**浮体式**に着目しました。洋上に浮かぶことで建築物の移動や、回転することによる浮体式の利点や、複数の浮体と連結することによって姿形が変化せることのできる点に魅力を感じました。



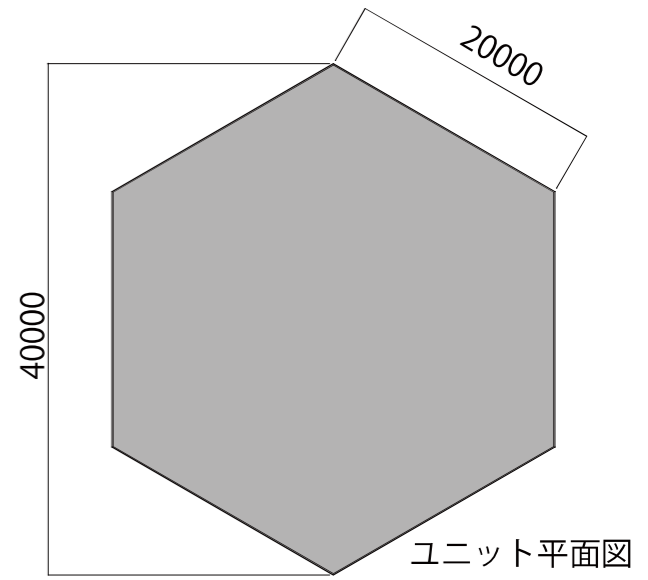
〈水中水族船 アクアドームペリー号〉

浮体式について

この工法は、建築物そのものを浮かべ岸壁や港のどに係留することによって風や波で流されることを防ぎ固定する工法です。

03/ 敷地とユニット

私たちの計画では水上建築の浮体式を用いた建築物です。そのため敷地がありません。そこでユニットという形を用いて敷地を計画し、その上に建築物を設計する方法で計画しました。ユニットは浮体コンクリートを使用し、角と角の対角線が40m、一辺の長さが20mの**正六角形**のサイズで計画しました。ユニット同士を連結するための設備と、船を用いての曳航のための設備を設けます。



ユニット平面図

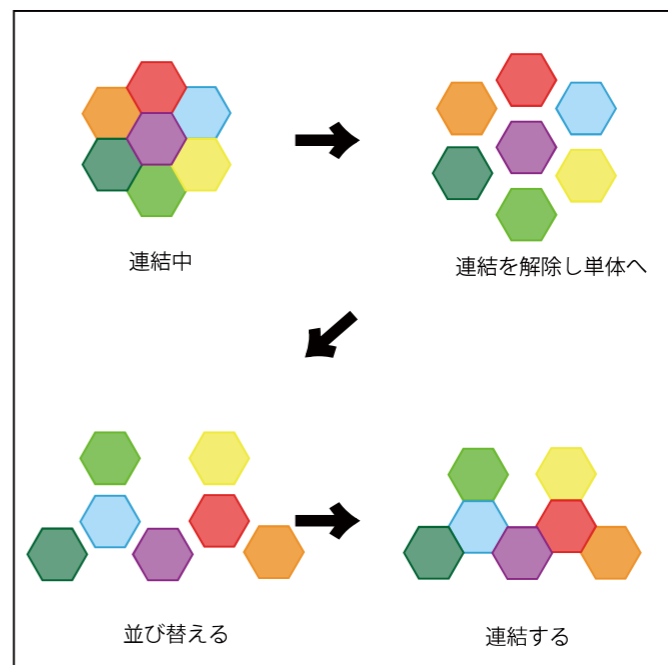
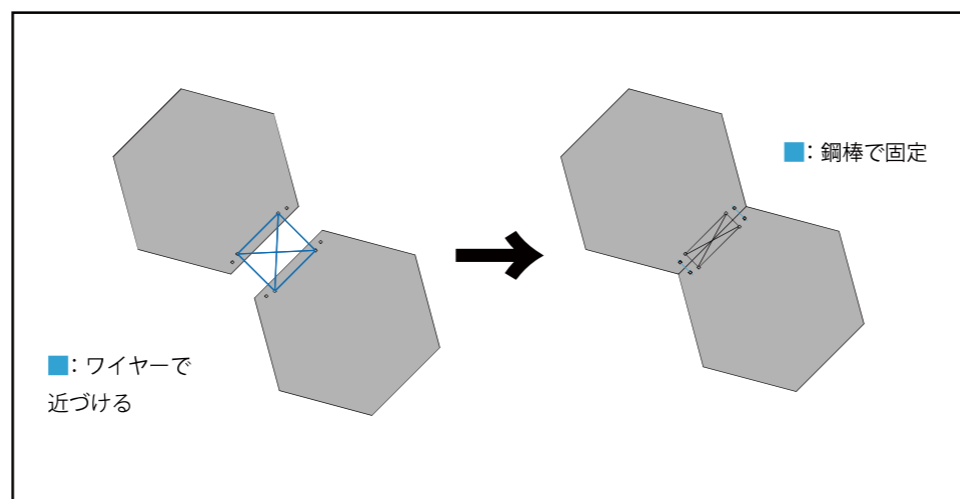
04/ ユニットの移動



〈曳航する様子〉

05/ ユニットの連結

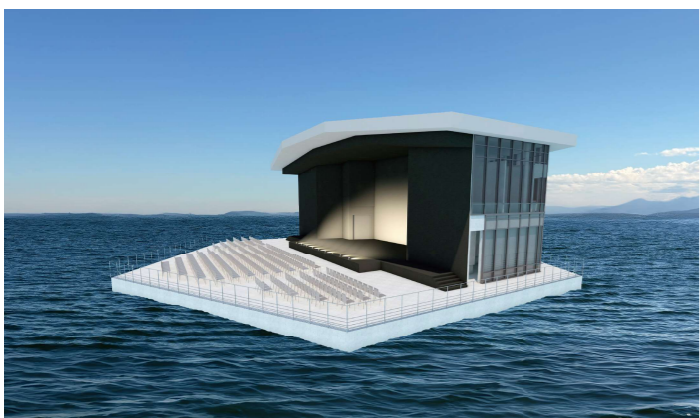
連結は浮体構造物の連結方法を用います。接続したい面同士を対面させウインチで巻き上げユニットを近づけることで連結、固定をします。接続後はワイヤーやウインチ、鋼棒を隠すことや保護することで破損などを防ぎます。



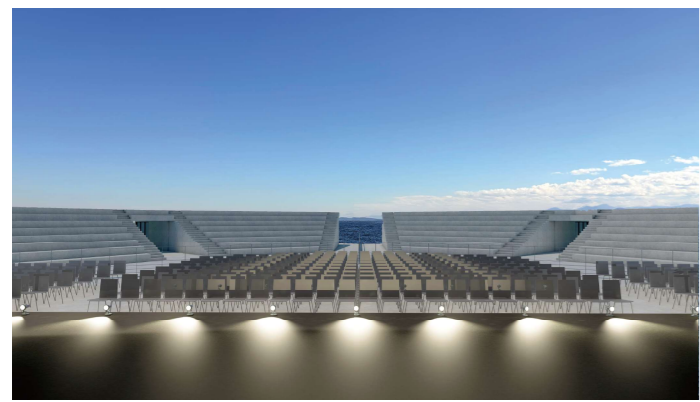
各ユニットそれぞれに施設を配置し全体の本計画の敷地とします。役割を持ったユニットの配置を入れ替たり増設したりすることで地域の特性に適した形状の構成や建築物の規模を増減させるような柔軟な対応の可能な施設にできます。

野外ステージ

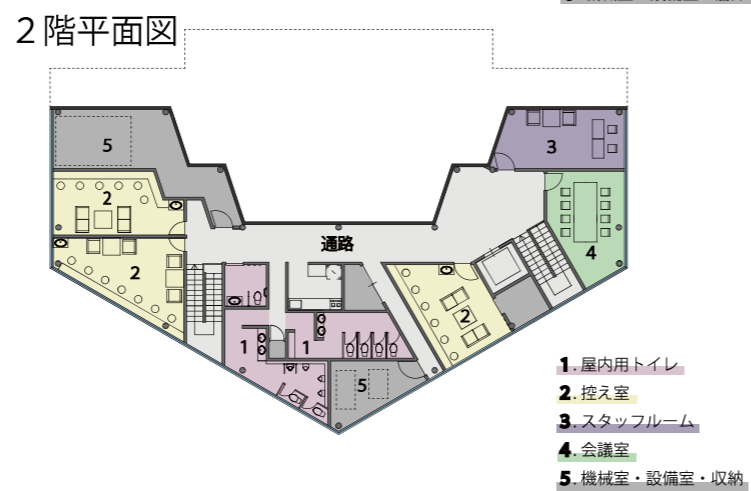
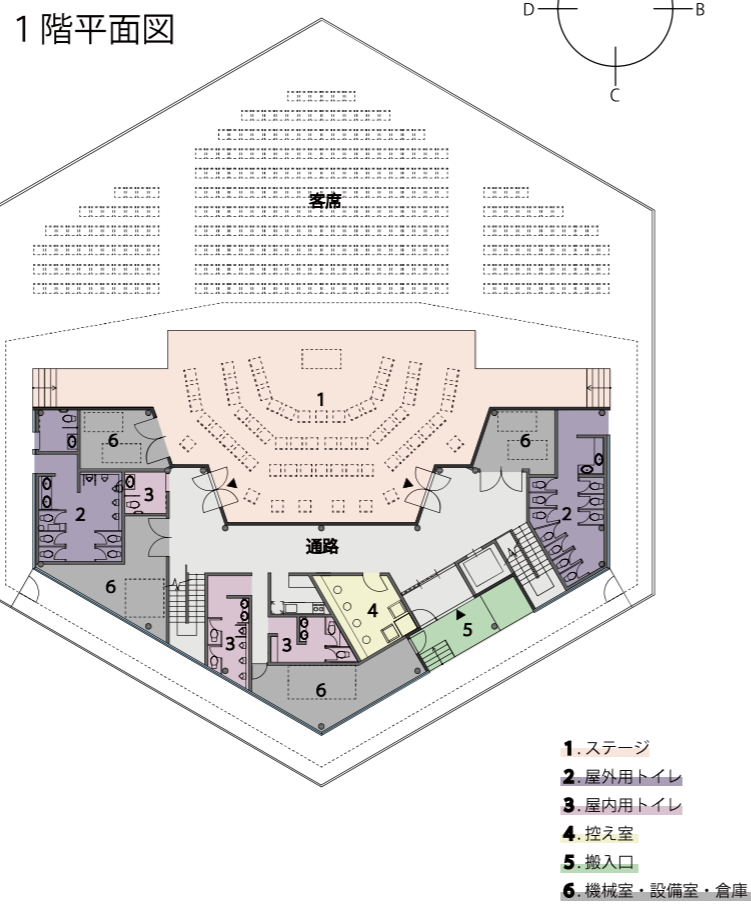
屋外で行うイベントの際のステージでの利用ができるユニットです。様々な地域に移動できる特性を活かし屋外イベントを開催できない沿岸地域でイベントの利用や沿岸部で行われるフェスなどの事業規模の拡大が見込めます。



〈外構〉



〈ステージ〉



展望台

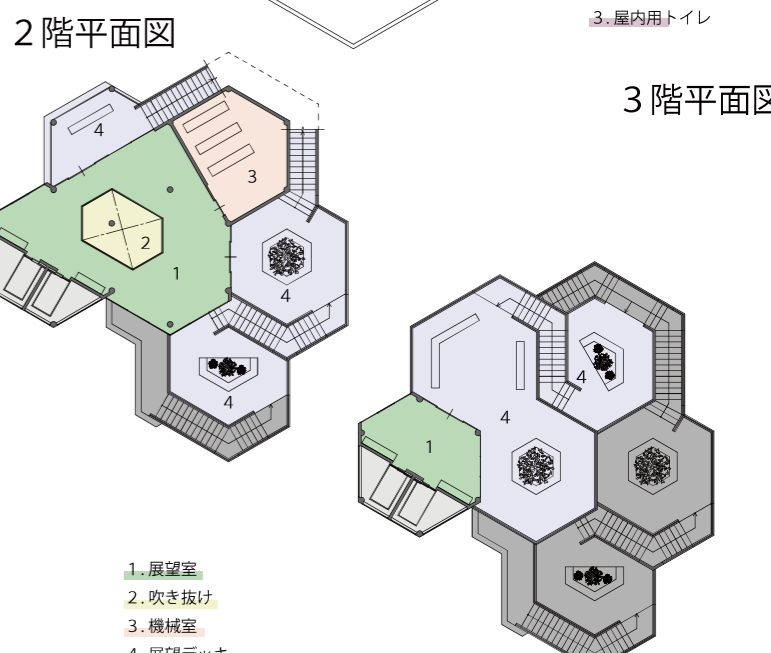
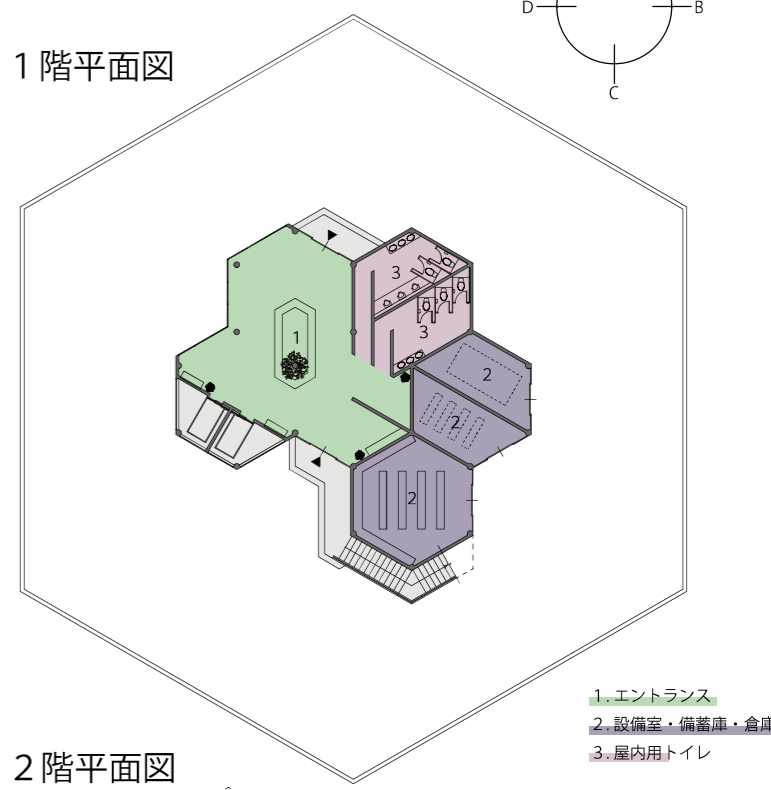
移動可能な海に建つ展望台として景観の変化や、展望することで地域の新たな魅力を映しだことのできる建築物にしたいと考えました。特徴として、展望台をベース中央に配置することによってユニットどうしの接合面が変わった際にどの位置になって、どの組み合わせになっても柔軟に対応できるように計画しました。



〈外構〉



〈エントランス〉

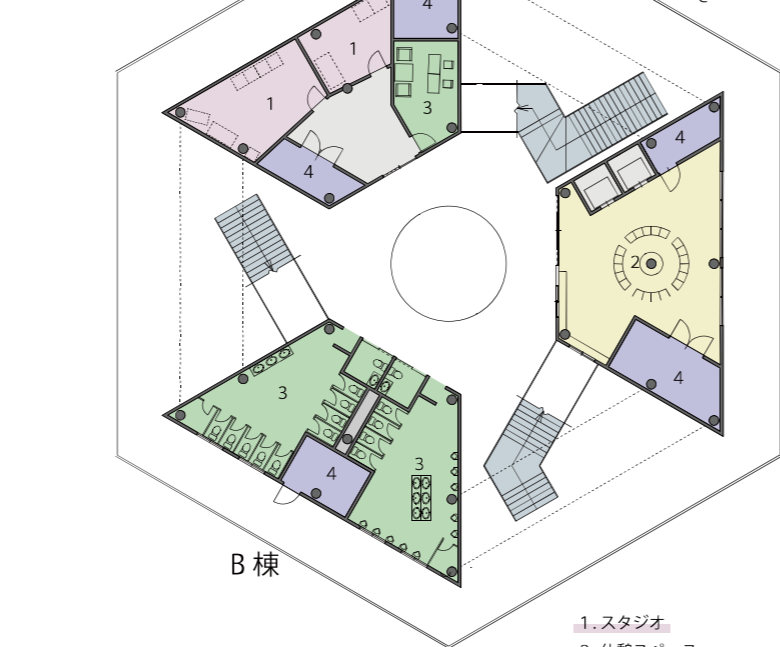


3階平面図

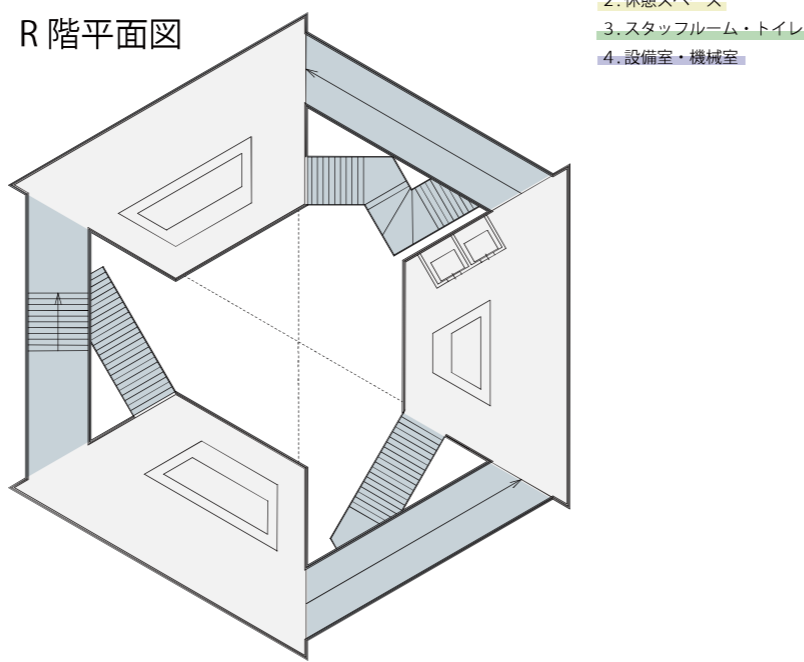
スタジオ

このユニットは楽器の演奏のスタジオと日差しが強い洋上での屋内の休憩スペース、屋上の開放感を感じられるスペースとして計画しました。外構として、3方向に出入口を設けることでどの向きで他ユニットと接合した際ユニットの中央を通過して複数方向に移動が可能となるような計画としました。また、各棟の間をスロープや階段で繋ぐことで屋上階だけの移動が可能になりその効果として建築物だけで回遊性を持たせることができます。

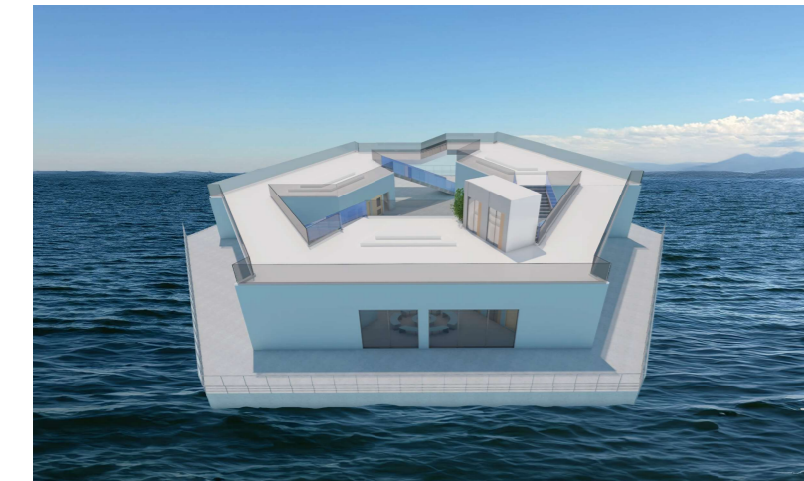
1階平面図



R階平面図



- 1. スタジオ
- 2. 休憩スペース
- 3. スタッフルーム・トイレ
- 4. 設備室・機械室



〈外構〉

客席 A・B

野外ステージや、オープンスペースと連結することでイベントの際の客席や敷地の拡張が見込めます。また、緑の少ない水上で多くの緑化空間を感じられる空間として設けました。



〈外構〉



〈デッキからの様子〉

オープンスペース

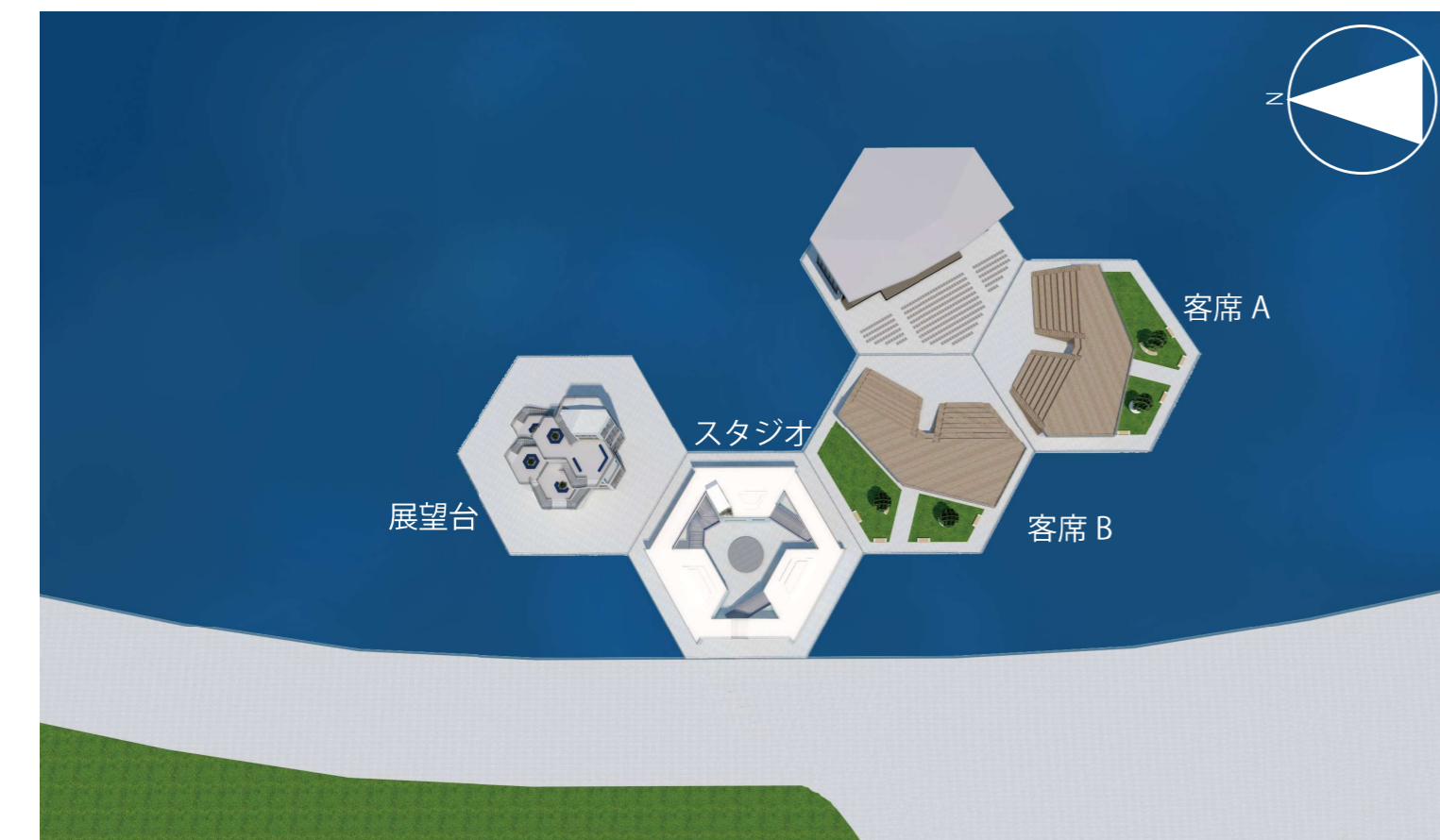
芝生を用いたオープンスペースとして利用を想定し、あえて何も無いユニットになります。利用方法を限定しないことで様々な空間を演出し、親水空間の拡張などが見込めます。



〈外構〉

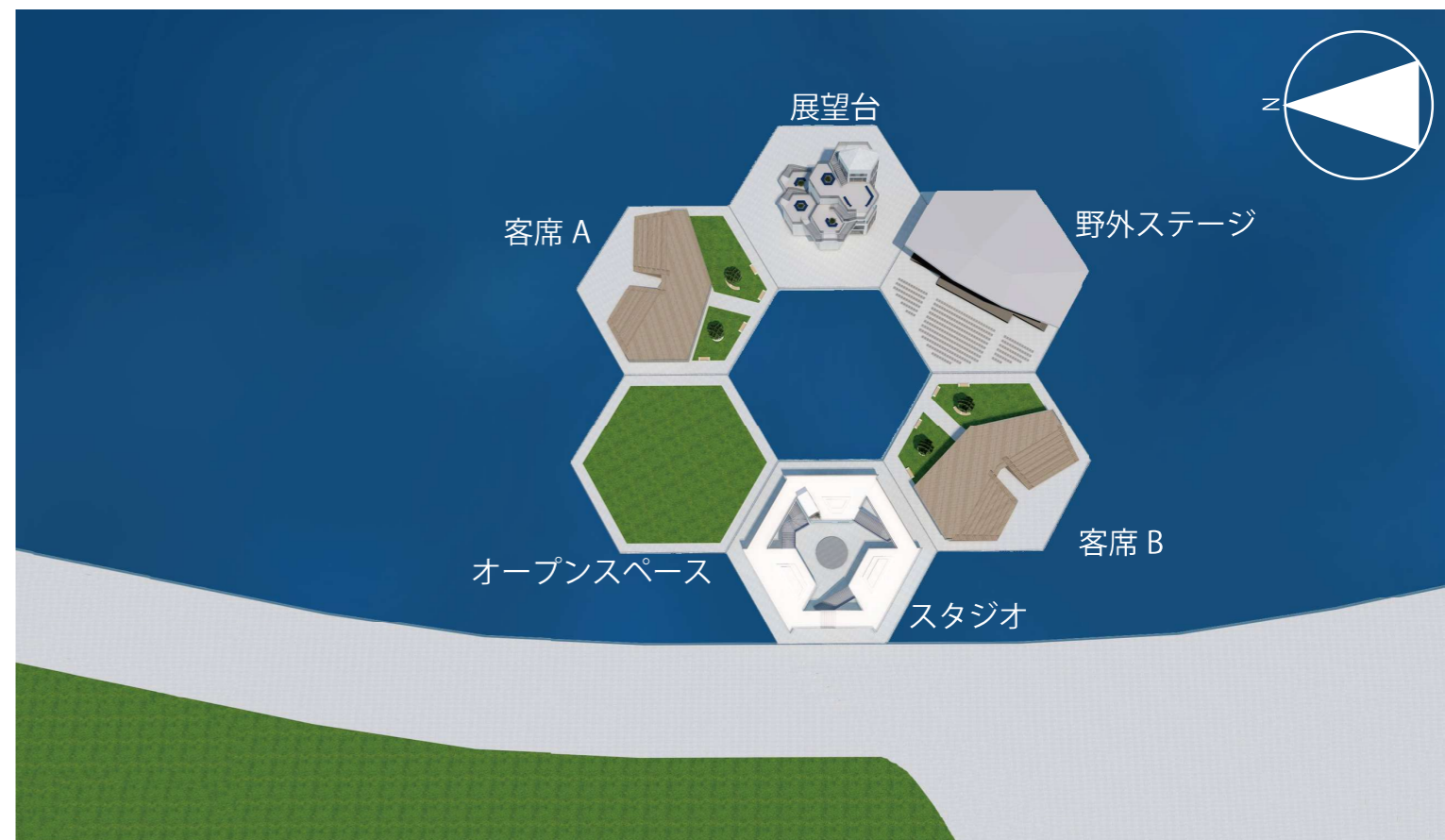
配置のバリエーション

プラン A



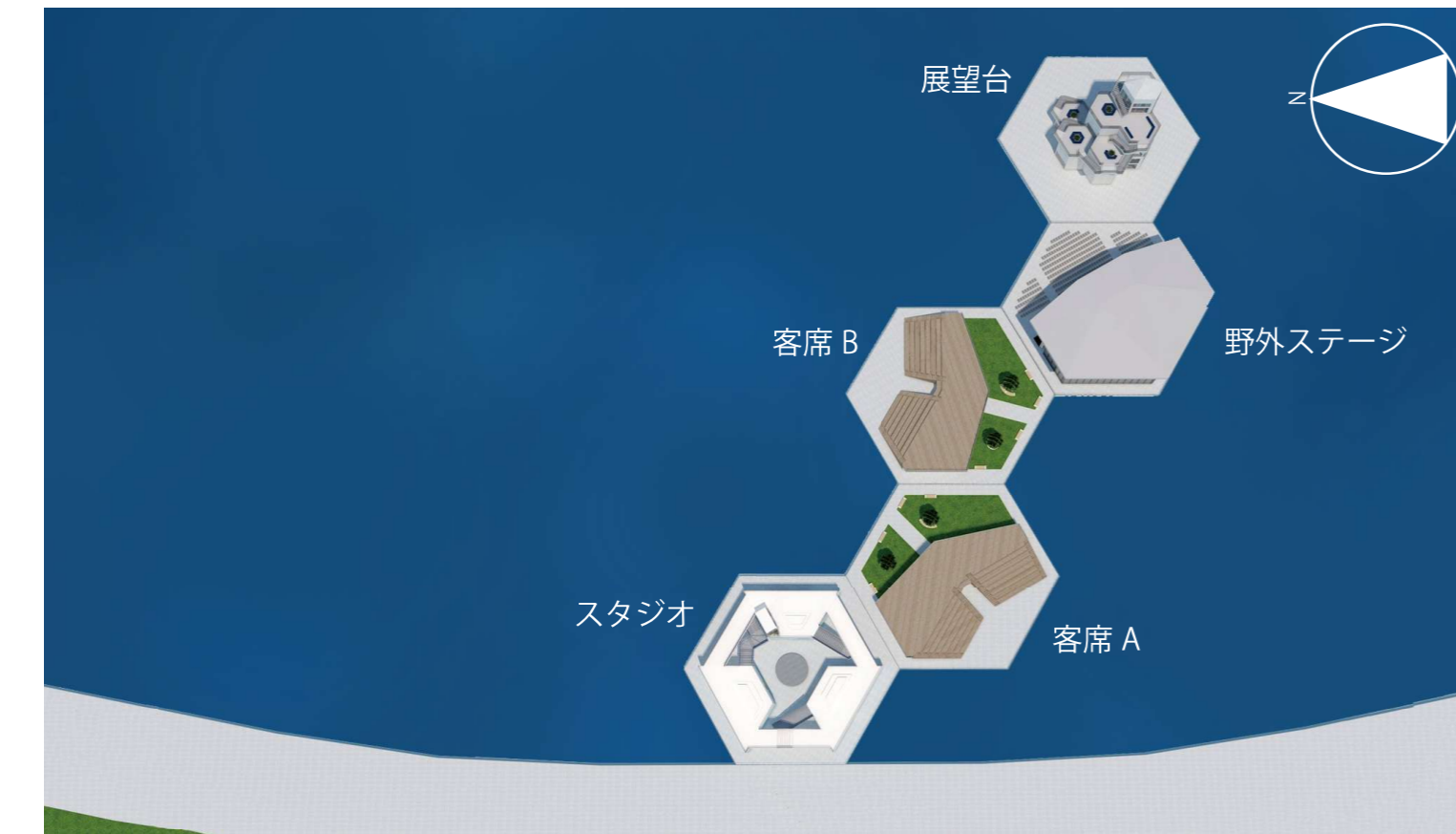
プラン A は野外ステージでのイベント利用を主軸に考えてたプランのひとつです。目的地を野外ステージとしたとき陸地から一番遠くすることによって本計画の全体を回っていただいたり水上建築の効果を体験していただいたり、展望台やスタジオのユニットでイベントの開催時間までの待機時間に訪れ最後に野外ステージに到着するプランニングです。

プラン B



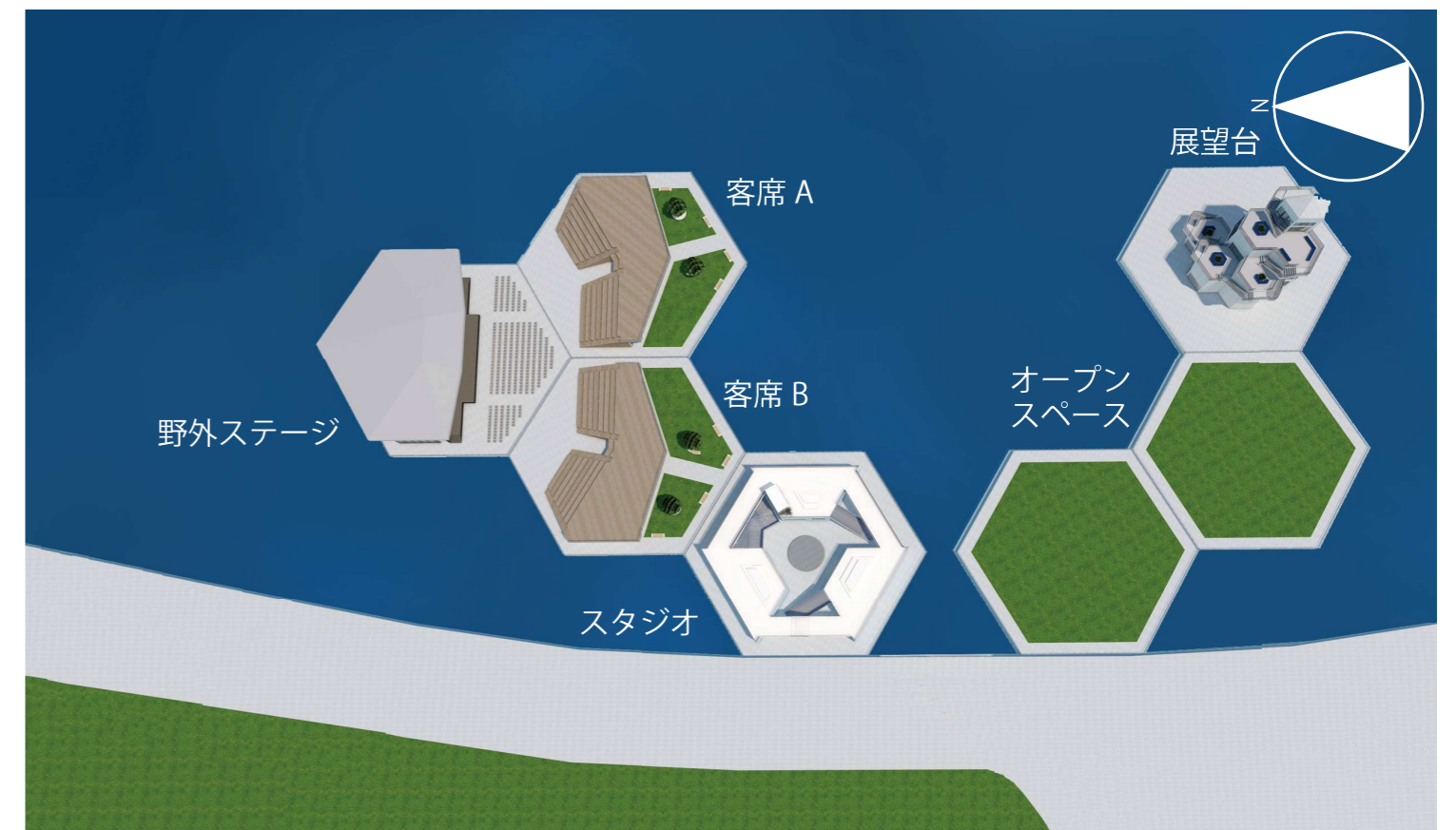
プラン B は複数のユニット全体を利用し、円形を連ねて回遊性を上げ親水空間をより感じられるプランニングです。野外ステージ、展望台、スタジオ、客席 A、客席 B を利用し回遊性を上げ、どのユニットからでも外側の海の水平線や陸地の様子などが望めたり、中央側のユニット全体の活動様子を感ずることができます。

プラン C



プラン C は、ユニット全体を利用し直列に配置し陸地から距離を離れたスペースから景色を感じることのできるプランニングです。野外ステージ、展望台、スタジオ、客席 A、客席 B を利用し陸地から離すことを演出し、海の上から周囲の風景を感じられる計画をしました。

プラン D



プラン D は、陸地からの入口を2箇所設け、用途別にユニットを分けるプランニングです。野外ステージと展望台とで入口を分けた際に、野外ステージを使用するイベントがライブなどの前売りチケットなどを使う物事だった場合、展望台はそのイベントとの関連性を持たせずその地域の観光客用で展開するパターンとしての利用を想定します。